

<森林整備の方向>

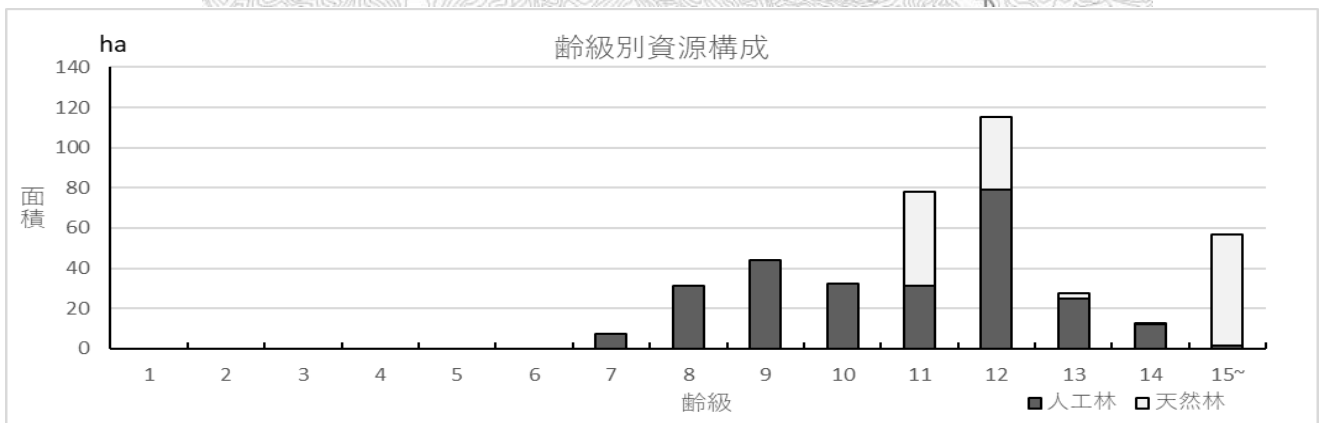
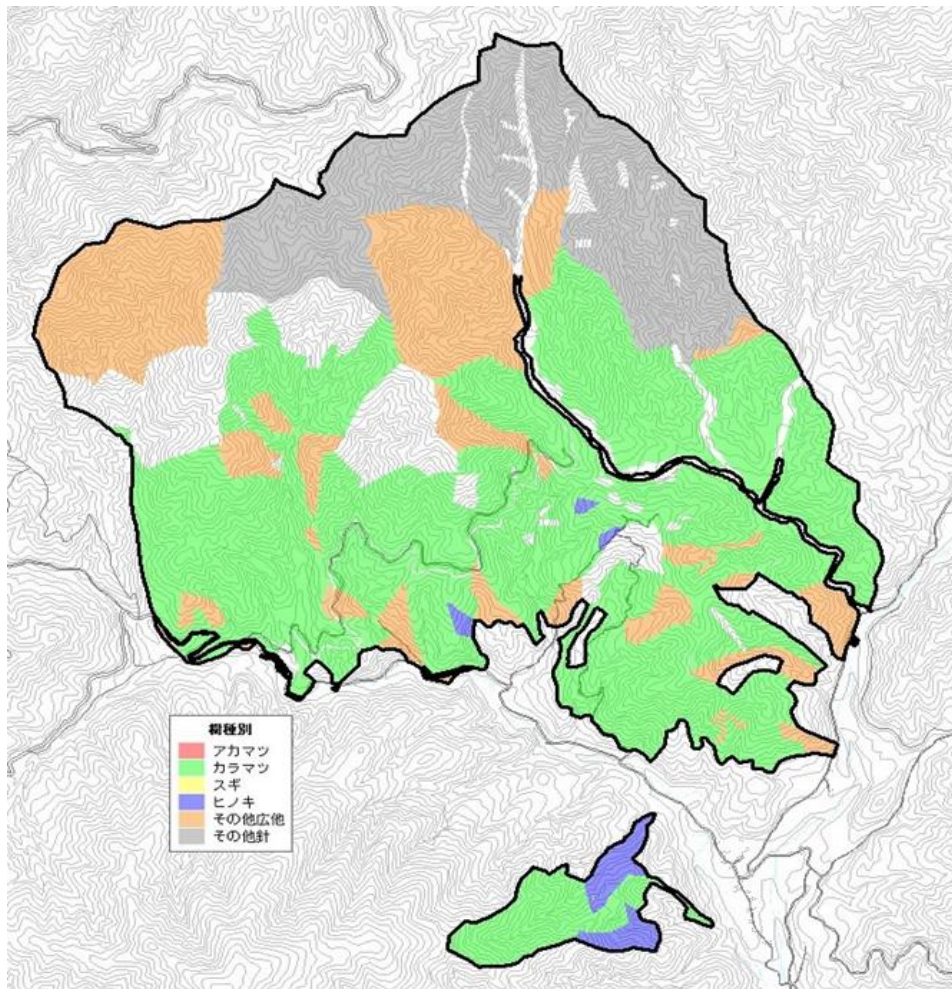
全体的に傾斜が急であり、路網開設が困難な地形である上に、全域が水源かん養保安林であることから、林業経営よりも公益的機能の増進に努める整備を行います。ただし、路網に隣接し、地位Ⅱの林地では長伐期施業にゾーニングし、中大径木生産を目指します。

また、標高が高く地位が低いなど、成長が期待できない林地については、奥地林施業として、中・下層の広葉樹の成長を観察しながら、上層のカラマツの収穫を図りつつ、自然林化を進めます。

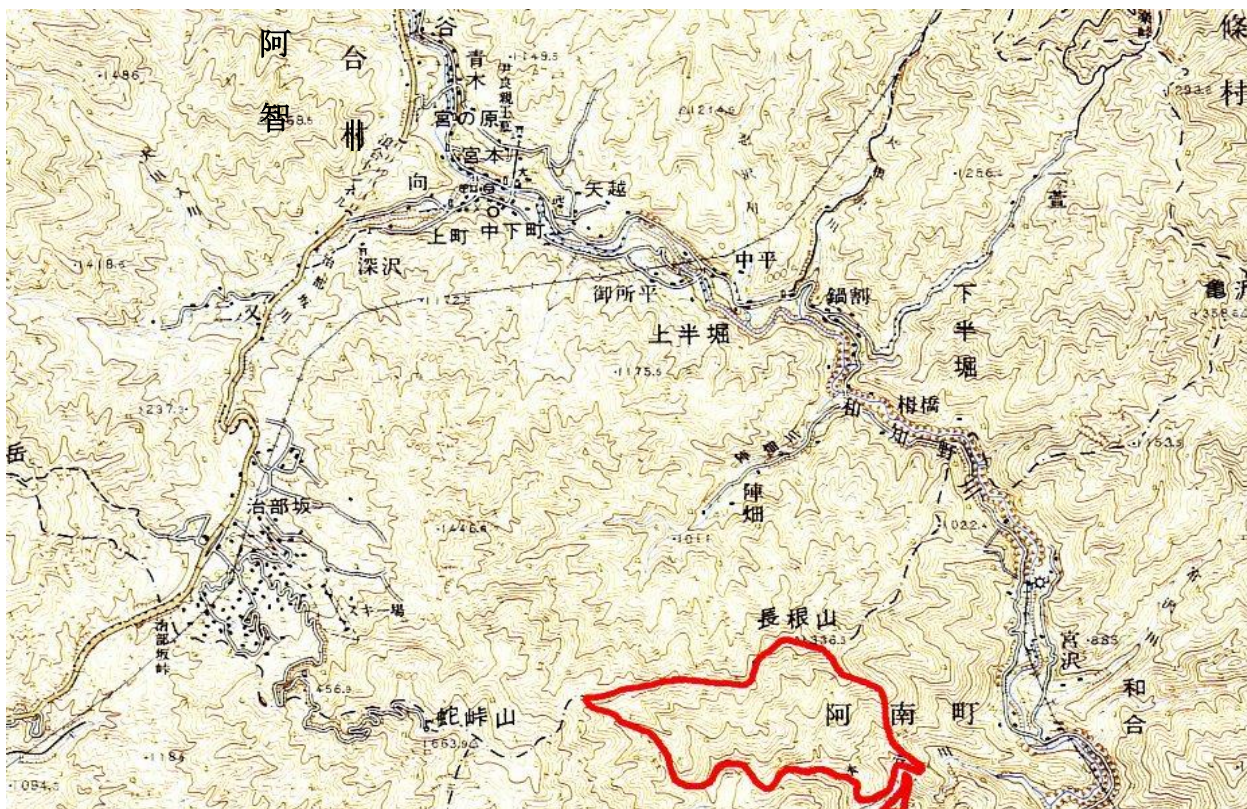
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
461.18			6.64	227.68	29.87	81.72	115.27
100%			1%	49%	6%	18%	25%



和合県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(中津川)を使用したものです。

<沿革>

和合県有林は、阿南町の西方標高840mから1,460mに位置しています。
昭和44年12月5日創設。個人有林を購入して県有林としました。

<現況・特色>

県有林の半分が、広葉樹で占められています。県道から県有林に至るには、旧木馬道の栈道を歩く必要があり、大変危険です。

ヒノキ林の一部は熊等の剥皮被害を受けているため獣害対策を実施しています。

尾根のアカマツ林にはマツタケが発生する場所もあります。



ヒノキ林（獣害対策を実施）

<森林整備の方向>

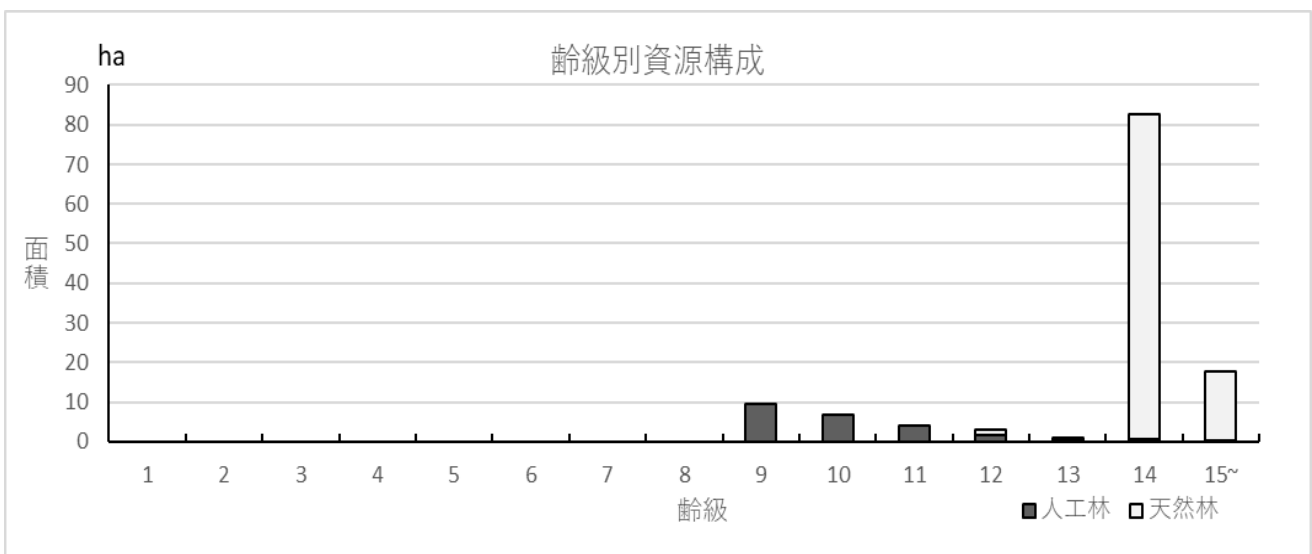
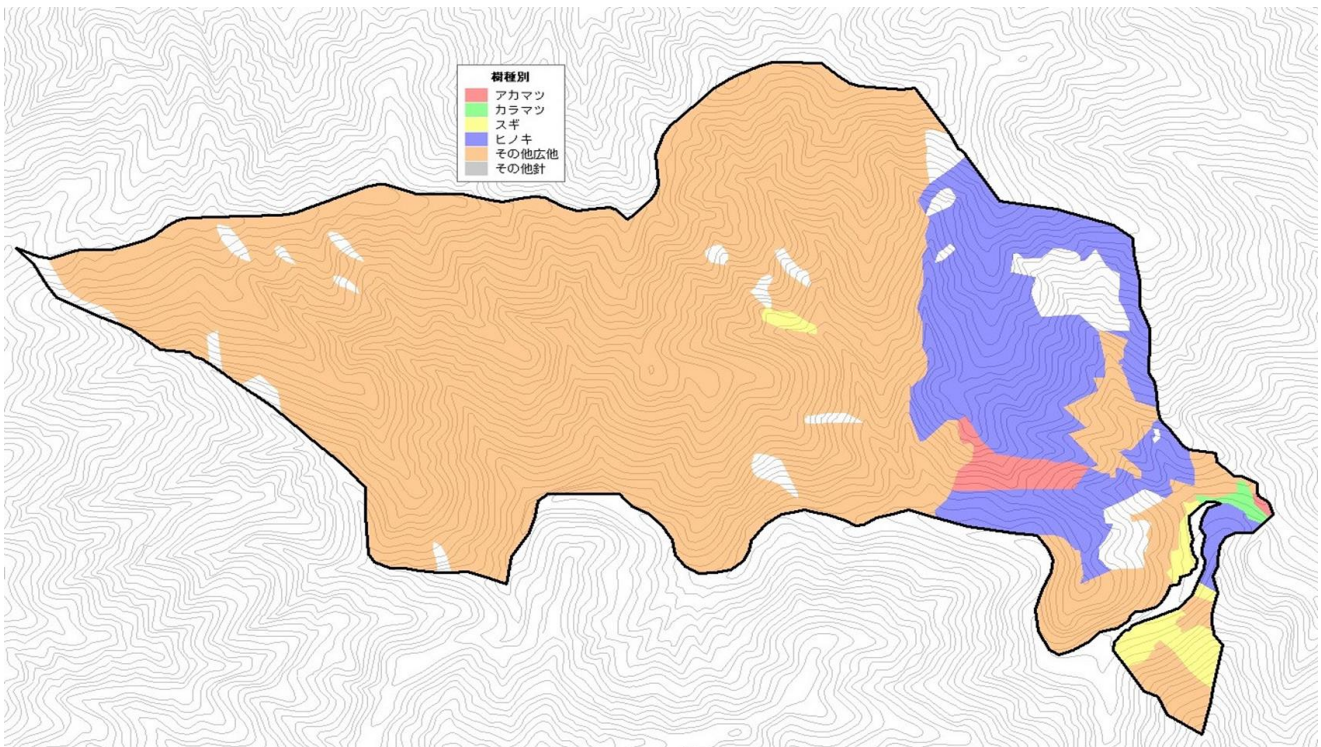
路網が無く、木材生産活動が困難である上に、全域が水源かん養保安林であることから、林業経営よりも公益的機能の増進に重点を置く施業を行います。

スギ・ヒノキの植栽地については、奥地林施業として、中・下層の広葉樹の生長を観察しながら、抜き伐りを検討し、自然林化を進めます。

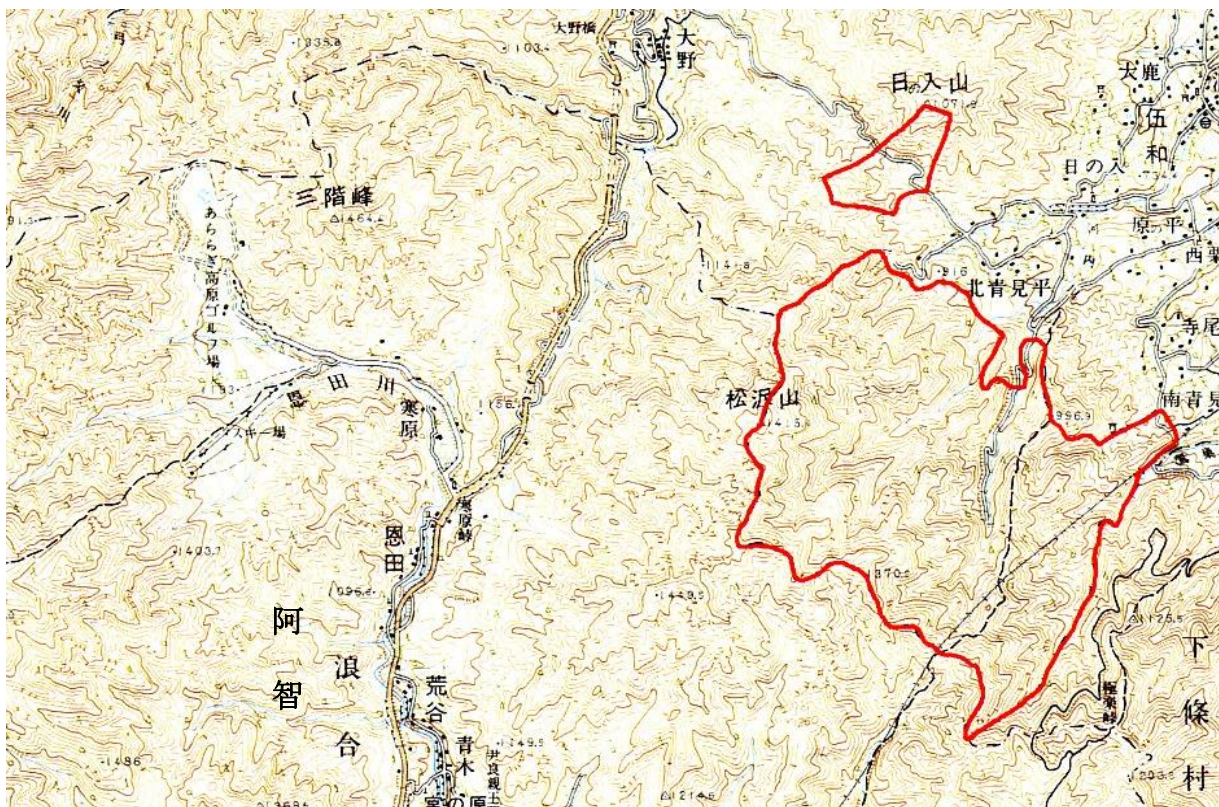
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
131.31	2.25	2.76	17.94	0.33	0.13	69.38	38.52
100%	2%	2%	14%	0%	0%	53%	29%



伍和県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(中津川)を使用したものです。

<沿革>

伍和県有林は、阿智村の東南、下條村との境、標高760mから1,420mに位置し、明治39年9月29日に創設された下伊那では最も歴史の古い県有林です。江戸時代には御林だったものが明治になって官有林となり、それを県が購入したものです。

本県有林の一部は、阿智村との間で部分林契約が結ばれ、阿智中学校の学校林として緑化思想の啓発に利用されているほか、信仰の対象「伊賀良神社」の杜として地元の人々と密接な関係が保たれています。

<現況・特徴>

創設当時は、主としてスギ、次いでヒノキが植栽されました。ヒノキの成長は良好で、現在では全体の25%がヒノキで、保育間伐等の手入れを必要とするヒノキ林が多くあります。

路網に隣接し、伐期を迎えた林分では木材の積極的な利用を図るため、令和元年度に1.2haの主伐を行い、翌年度に再造林を実施しました。

基岩は風化しやすい花崗岩であることから崩壊がおきやすく、「36災」当時に甚大な被害を受け、近年では平成25年台風18号災で被災し、治山事業等により林地の復旧を図っています。



ヒノキ林



主伐実施地(令和元年度)

<森林整備の方向>

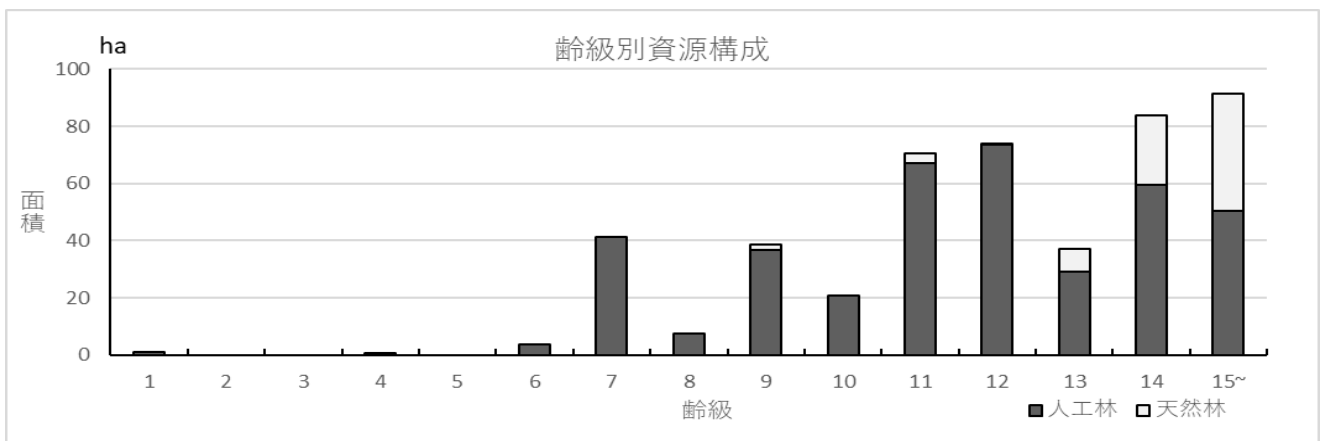
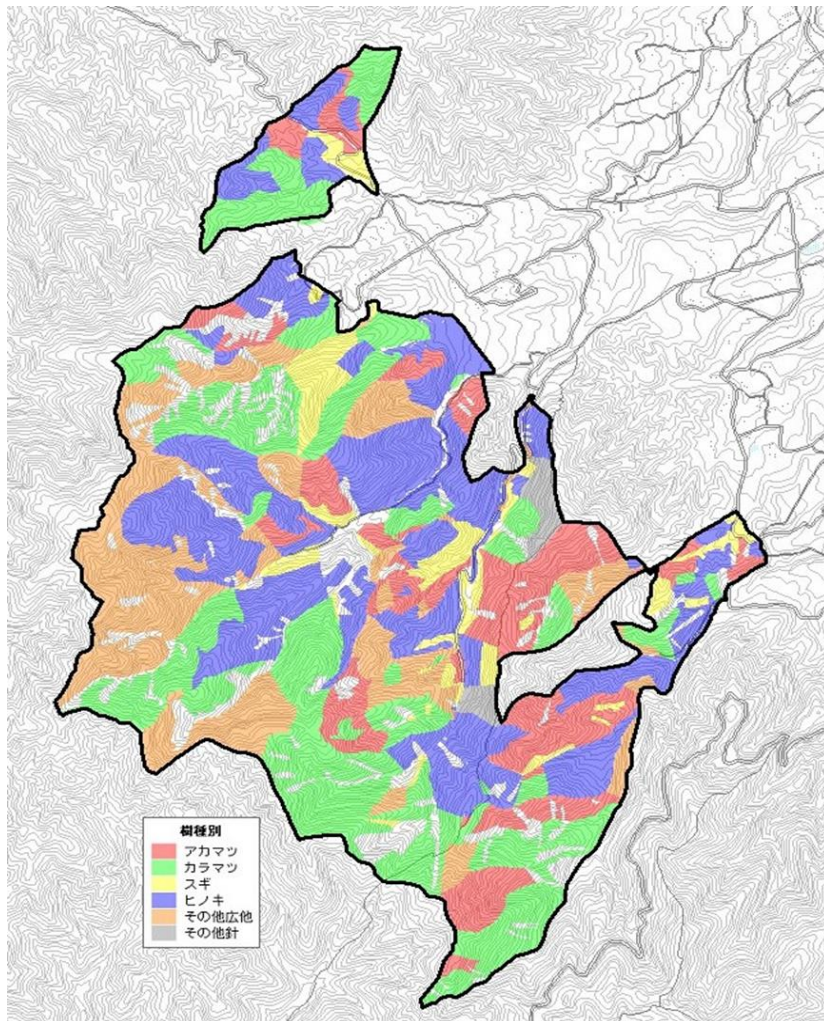
路網に隣接し、生育状況が良好で傾斜の緩い林地については、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を行います。傾斜が25度～35度で路網に隣接している林分においては、帯状伐採等により主伐を行い、再造林もしくは天然更新による針広混交林化を図ります。

路網から離れ、搬出が困難な林地では、奥地林施業として、上層木を適宜抜き伐り、天然林化を促進します。

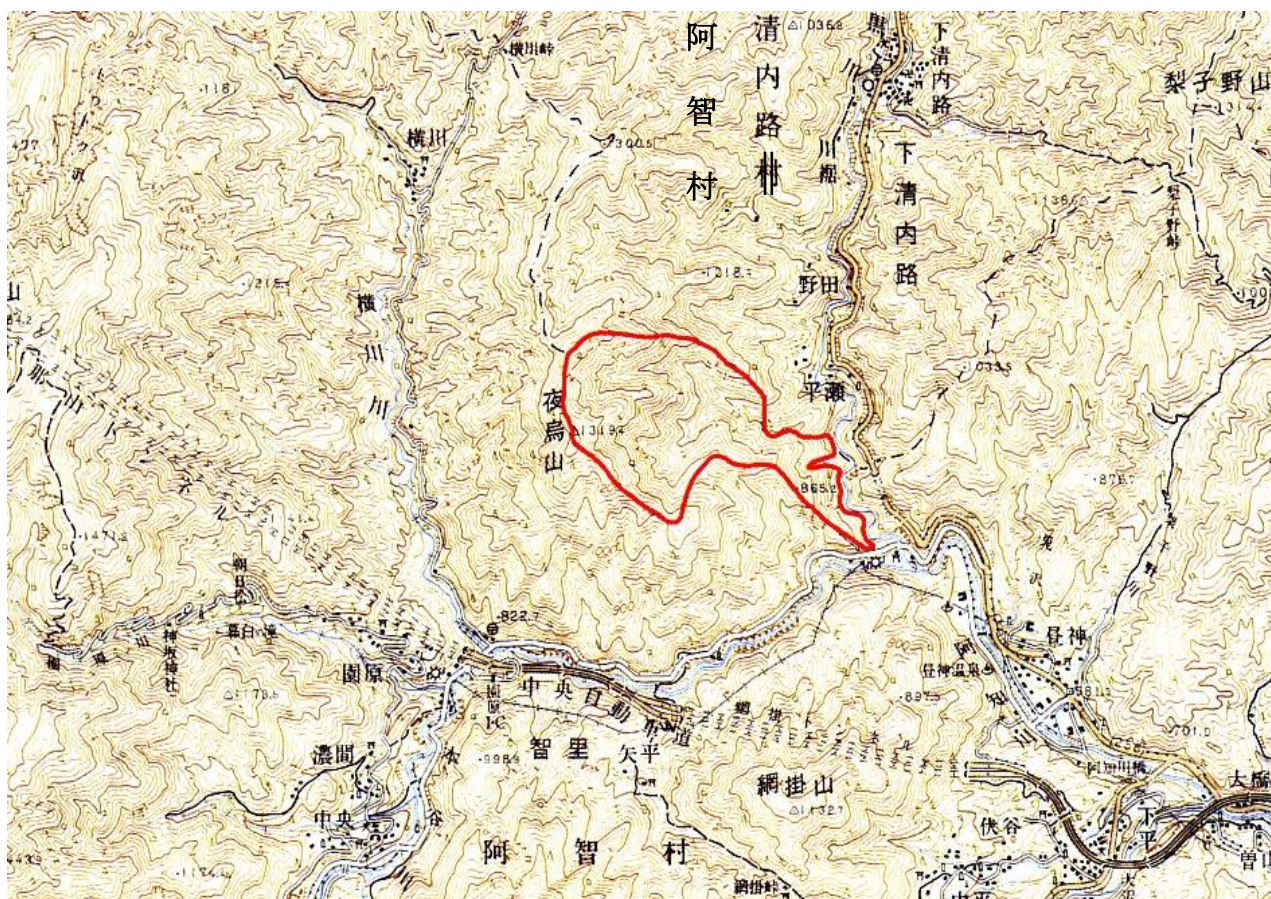
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
515.8	30.54	73.45	145.87	123.23	3.19	32.68	106.84
100%	6%	14%	28%	24%	1%	6%	21%



智里県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(中津川)を使用したものです。

<沿革>

智里県有林は、阿智村の西方標高610mから1,320mに位置しています。
昭和38年12月24日に共有林を購入して創設された県有林です。

<現況・特色>

県有林の大半を占めていたアカマツ林は、昭和61年春の雪害でその多くが失われました。その後ヒノキを植栽しましたが、急峻な地形のため必ずしも良好な成果が得られていません。



アカマツと広葉樹の混交林

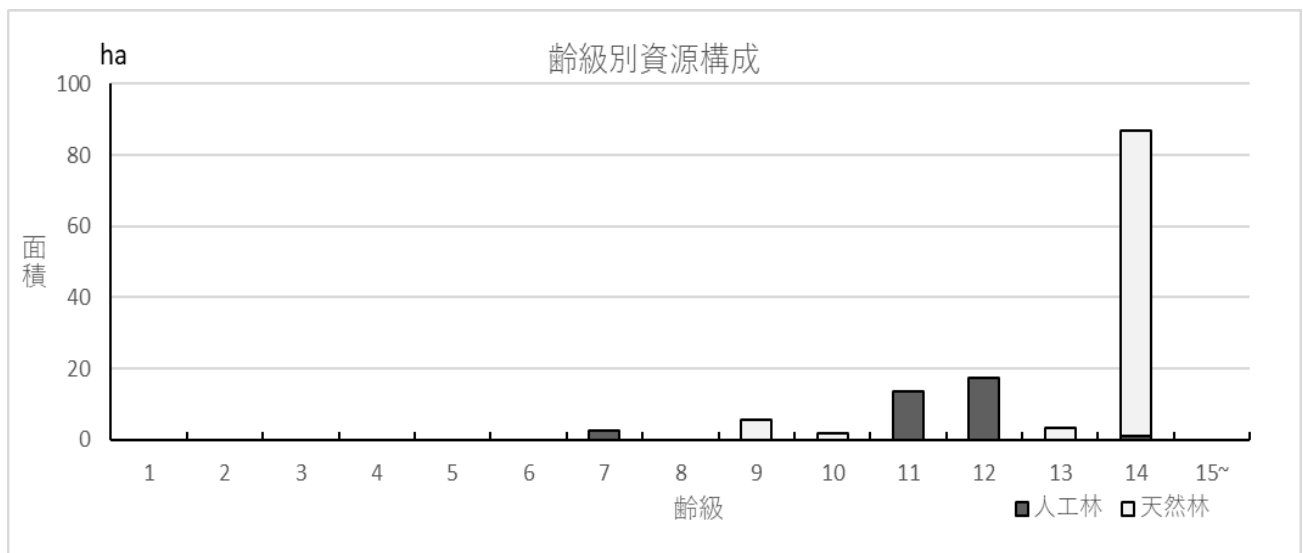
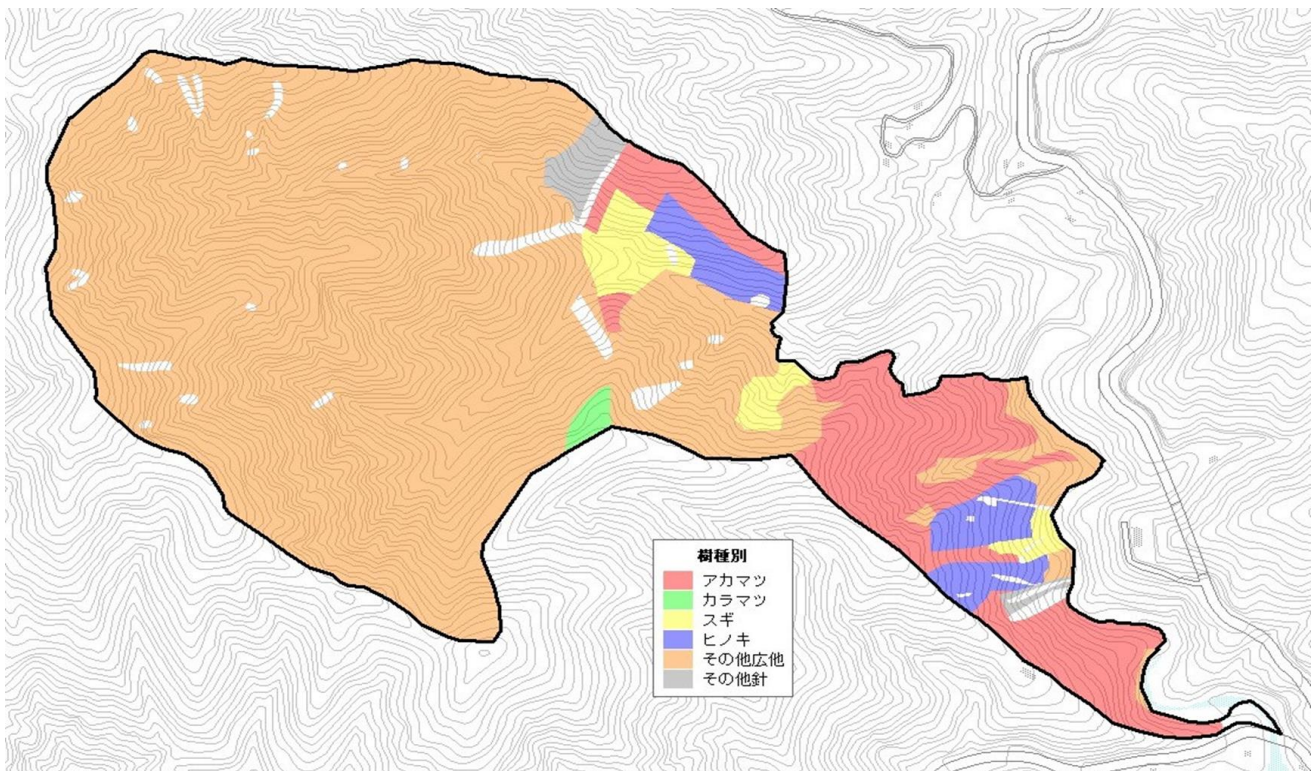
<森林整備の方向>

急峻で地質が脆く、木材生産活動の実施が困難である上に、ほぼ全域が土砂流出防備保安林であるため、林業経営よりも公益的機能の増進に重点を置き、中・下層の広葉樹の成長を観察しながら、上層木を抜き伐り、自然林化を図ります。

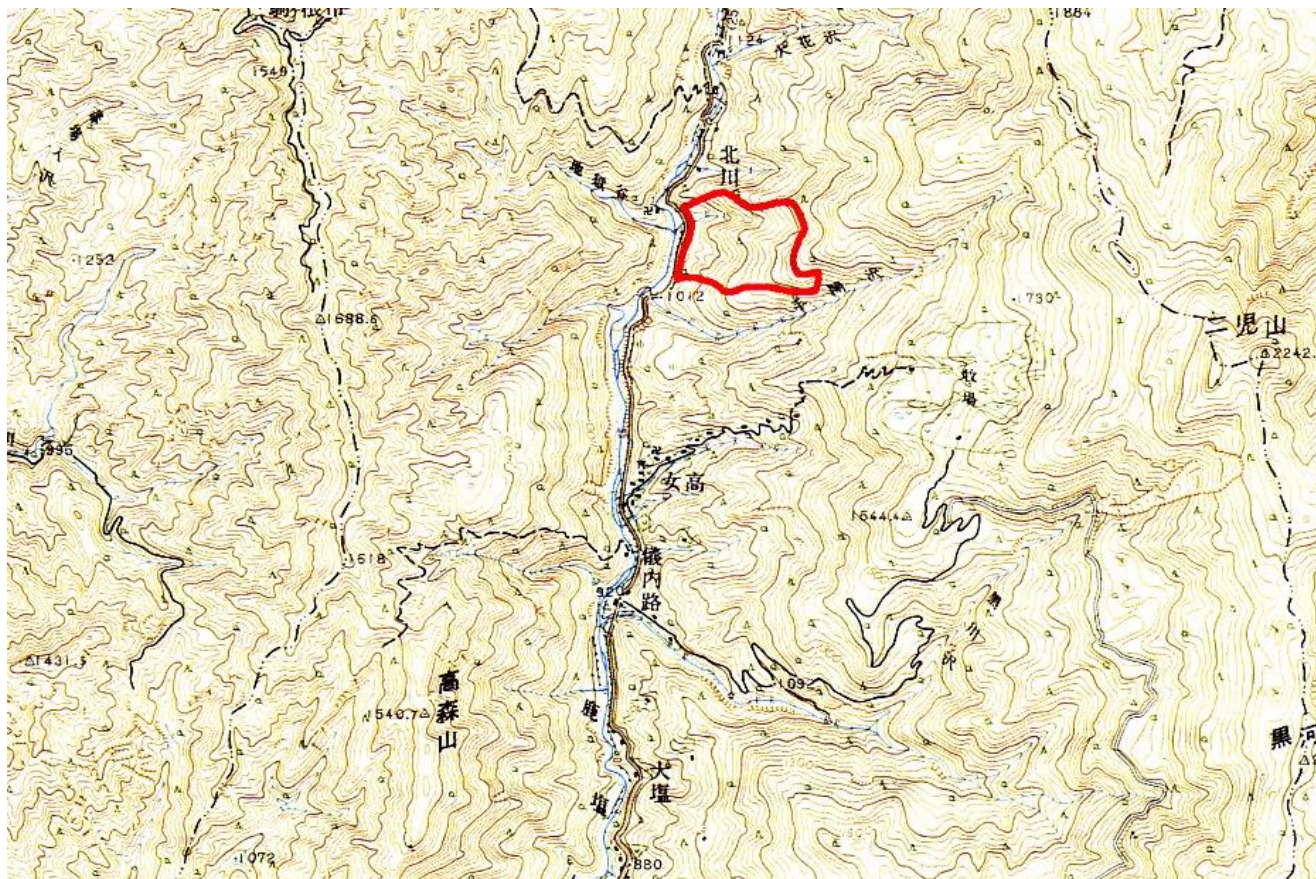
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
135.01	3.64	23.79	6.49	0.46	0.23	10.72	89.68
100%	3%	18%	5%	0%	0%	8%	66%



大鹿県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(大河原)を使用したものです。

<沿革>

大鹿県有林は、大鹿村の北方標高1,000mから1,400mに位置しています。この県有林は、かつて天竜川流域に大災害をもたらした「36災」により大鹿村の北川地区が壊滅的な被害を受けた際、被災住民の集団移住費用の捻出のために、県が北川地区住民から購入した山林です。

<現況・特徴>

地形はかなり急峻です。その大半を占めるカラマツ林は良好な成長を示していますが、ニホンジカによる剥皮被害が見受けられます。また、クマの徘徊も時々見られるので、注意が必要です。



カラマツ林

(下層植生はニホンジカに食べられ一部の植物のみが生育する)

<森林整備の方向>

地形が急峻な上、ニホンジカによる獣害も大きいため、主伐・再造林の実施は難しく、当面は公益的機能の増進を図る整備を検討します。上層木を伐採しても、発生した下層植生がニホンジカに食べられてしまい、林地が露出することにより、土砂流出防備機能や水源かん養機能が低下するためニホンジカ対策についても併せて検討する。

<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
53.51	5.99	2.75	8.13	29.91	1.10	3.22	2.41
100%	11%	5%	15%	56%	2%	6%	5%

